

(公印省略)

26 農林試第 4740 号  
平成 26 年 10 月 7 日

各関係機関団体の長 }  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成 26 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

このことについて、本県でクロテンコナカイガラムシの発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 2 号を発表し、送付します。

特殊報第 2 号

- 1 病虫害名 クロテンコナカイガラムシ
- 2 学名 *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
- 3 発生作物 ミニトマト、ナス
- 4 発生の経過と概要

平成 26 年 8 月中旬、県内のミニトマト圃場及びナスの育苗圃において、コナカイガラムシ類と推定される成幼虫がミニトマトの茎葉、果実、並びにナス苗の葉に寄生し、加害しているのが確認された(写真 1、2、3)。また、ナス苗では本虫の吸汁による新葉の生育障害も確認された(写真 4)。

これらの虫の同定を農林水産省門司植物防疫所に依頼したところ、本県未発生のクロテンコナカイガラムシ(学名：*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)であることが判明した。

なお、発生ほ場における経過を観察したところでは、8 月下旬には圃場での発生密度はかなり減少していた。

- 5 本種の形態、特徴等  
(1) 形態

雌成虫は、翅を欠き、体形は楕円形である。体長は通常 3～4 mm 強であるが、大きい個体は 5 mm を超える。背面に白色のロウ物質を分泌し、全体としては白く見えるが、ロウ物質は中央部で薄くなるため、2 齢幼虫以降は 2 対の黒斑があるように見えるの

が特徴である（写真5）。

(2) 分布

日本：沖縄県、佐賀県で発生が確認されている。

海外：中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、スリランカ、インド、パキスタン、エジプト、イラン、トルコ、オランダ、西アフリカ、北米～南米、オーストラリア、ニューカレドニア

(3) 生態

成虫はワタ状のロウ物質の卵のう内に平均で350個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と、雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。卵の多くは雌成虫の体内でふ化するため、卵のう内の固体の多くはふ化幼虫（1齢幼虫）である。1齢幼虫は数日間卵のう内で過ごした後、摂食のために歩いて分散する。雌では2齢、3齢幼虫を経て成虫となる。雄では2齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し、1対の翅を持つ成虫となる。本種の単為生殖個体群における1世代の発育期間は平均70日程度である。

(4) 寄主・被害

広食性で、海外ではワタ、オクラ、トマト、ナス等53科154種の植物に寄生することが確認されており、寄主植物は雑草から作物まで広範囲にわたる。インド及びパキスタンでは主要作物である綿花に被害を与えている。

6 防除対策

- (1) 茎葉等に寄生する成幼虫と、それらが分泌する甘露及び甘露によるすす病（写真6）を目安に、早期発見に努める。
- (2) 発生を確認した場合は寄生部位を除去して、施設外に持ち出し土中に埋めるなど適切に処分する。
- (3) 現在のところ、ミニトマト、ナス、及びその他野菜類において、本種に適用のある農薬はない。



写真1 ミニトマトの茎に寄生したクロテンコナカイガラムシ



写真2 ミニトマトの果実のへたに寄生したクロテンコナカイガラムシ



写真3 ナス苗の葉に寄生したクロテ  
コナカイガラムシ



写真4 吸汁害により新葉に障害を  
生じたナス苗



写真5 中齢幼虫

※ ロウ物質の薄い部分が2対の黒斑に見える。



写真6 ミニトマトの果実に生じたすす病